

小児在宅ケア研究会会報 第4号

平成21年9月25日

【第5回小児在宅ケア研究会 年次集会のご報告】

平成21年6月27日（土）に、第5回小児在宅ケア研究会年次集会が、「子ども家族の意向にそった小児在宅ケアに向けて」をテーマに、名古屋大学大幸キャンパスで開催されました。今年度の参加者は昨年度より多い147名となり、盛況のうちに開催されました。今年度の参加して頂いた方の多くは病棟で勤務されている看護師の方でしたが、保健師の方にも参加して頂くことができました。

年次集会は、活動報告3件、事例報告が2件、講演というプログラムで開催されました。活動報告は、地域中核病院での小児在宅ケアコーディネーター研修会修了生の具体的な活動内容の発表、進行性の疾患により在宅人工呼吸管理が必要となったお子さんに対し、家族の希望を取り入れながら在宅ケアに向けて行われた具体的な看護援助の発表、長期入院をしていた超重症心身障害児の在宅ケアを行うまでの家族の気持ちに寄り添って行われた看護援助の発表など、非常に具体的な活動状況が報告されました。事例検討では、家族の状況が複雑な、重度の心身障害をもつお子さんの在宅ケア移行への支援、在宅ケアを行っている状況であるが、そこに様々な職種がかかわる事で家族が負担を感じているケースへの支援といった内容の発表が行われました。活動報告、事例報告ともに活発な意見交換が行われ、小児の在宅ケアが一般の病院でも積極的に取り組み、その中で看護職が様々な努力をされ成果を上げられている様子を感じ取る事ができ、困難な事例を抱えている参加者の方の励みになったのではないかと思います。また事例に関しては、それぞれの事例により対応方法が異なる事もあり、困難さを感じる要因となるのではという事も感じましたが、お子さんやその御家族にとって一番良い方法が何かということを考えていくといった看護の基本は変わらないのではないかと思います。あらためて確認しました。

プログラムの最後に、「小児在宅医療の現状とこれからの課題」というテーマで、千葉県松戸市にある、あおぞら診療所院長の前田浩利先生にご講演をしていただきました。前田先生が実際に行われている小児の在宅ケアに関わる実践的な取り組みに関する貴重なお話をお聞きし、多くの参加者が感動するとともに、小児の在宅ケアの重要性を改めて感じたのではないかと思います。

年次集会に参加され方のうち113名の方には、アンケート調査にも御協力頂きました。病棟の看護師の方が65%以上と参加者の多くを占め、その他に外来看護師や訪問看護師、保健師の方が参加されていました。研修会全体の感想としては、ほとんどの方が満足したと回答されていました。全体の感想の自由回答の中には、自分の看護の振り返りきっかけとなった、今後の方向性や課題が見えてきた、講演を聞きモチベーションがあがったなど、年次集会に参加された事が、今後の励みになったと思われる回答なども多く、今回の年次集会が参加者の皆様のお役に立てたのではないかと思います。今後の研究会への要望としては、社会資源に関することや、他施設との連携など、様々な内容があげられていました。

また、今回の年次集会の活動報告や事例報告の多くは、小児在宅ケアコーディネーター研修会

の修了生の方によるもので、今まで行ってきた研修会の成果が、少しずつ臨床の現場に現れているのではないかという事が伺われ、研修会等を企画している運営委員としては、非常にうれしく感じております。

今回皆様から頂きました貴重なご意見を、今後の小児在宅ケア研究会の活動等に生かしていきたいと考えております。アンケート調査の詳細は、資料として同封させていただきますので、ご覧下さい。



【第5回小児在宅ケア研究会総会のご報告】

第5回小児在宅ケア研究会総会が、年次集会と同日の6月27日に開催されました。報告事項として、事務局より現在の会員数の報告、その後平成20年度の活動報告が行われました。また審議事項としてあげられていた、平成20年度の決算と会計監査、また今年度は役員改選の時期となるため、新規の運営委員及び事務局担当者の変更、平成21年度の活動計画（案）ならびに平成21年度の予算（案）が審議され、全てについて承認が得られました。詳しくは、同封させていただきます総会資料をご覧下さい。

（文責：堀妙子）